



通話パーク

- [通話パークについて \(1 ページ\)](#)
- [通話パークの構成 \(10 ページ\)](#)
- [通話パークの設定例 \(19 ページ\)](#)
- [次の作業 \(21 ページ\)](#)
- [通話パークの機能情報 \(22 ページ\)](#)

通話パークについて

Cisco Unified CME 7.1 での通話パークの機能拡張

Cisco Unified CME 7.1 では SIP 電話の通話パークのサポートが追加され、パーク予約グループが導入され、ダイレクト通話パーク機能が強化されました。パークスロットは SCCP 電話機と SIP 電話機の間で共有できます。たとえば、SCCP 電話機でパークされたコールは、同じ Cisco Unified CME ルータの SIP 電話機で取得できます。通話パーク機能は、[パーク (Park)] ソフトキーをサポートする SCCP 電話機と SIP 電話機で使用できます。デフォルトでは、[パーク (Park)] ソフトキーはサポートされる電話機に表示されます。

表は、Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1 以降のバージョンとそれ以前のバージョンで、電話機ユーザーが、どのように通話をパークし、取得するかの違いを示しています。SCCP 電話機の場合、唯一の変更点はダイレクト通話パークの取得を実行する方法です。以前のバージョンの Cisco Unified CME でサポートされていた通話パーク方法は、デフォルトで有効になっています。パークと取得の方法を変更できるのは、パークされているコールがない場合にだけです。

機能	Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1 以降のバージョン (SCCP および SIP 電話機) ¹ 。	Cisco Unified CME 7.1 よりも前のバージョン (SCCP 電話機のみ)
通話パーク (基本)	[パーク (Park)] ソフトキーを押して、コールをパークします。	[パーク (Park)] ソフトキーを押して、コールをパークします。

機能	Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1 以降のバージョン (SCCP および SIP 電話機) ¹ 。	Cisco Unified CME 7.1 よりも前のバージョン (SCCP 電話機のみ)
service directed-pickup コマンドが構成されている場合のみ (デフォルト)、 Call Park Retrieval ²	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • パークスロット内線番号をダイヤルします (SCCP および SIP)。 • [ピック (Pickup)]ソフトキーを押して、パークスロット内線番号をダイヤルします (SCCP のみ)。 • [ピック (Pickup)]ソフトキーと、コールがパークされた電話機のアスタリスク (*) を押しません (SCCP のみ)。 	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • パークスロット内線番号をダイヤルします。 • [ピック (Pickup)]ソフトキーを押して、パークスロット内線番号をダイヤルします。 • [ピック (Pickup)]ソフトキーと、コールがパークされた電話機のアスタリスク (*) を押しします。
ダイレクト通話パーク	[転送 (Transfer)]ソフトキーを押して、パークスロット内線番号をダイヤルします。	[転送 (Transfer)]ソフトキーを押して、パークスロット内線番号をダイヤルします。
ダイレクト通話パーク取得	取得用の FAC およびパークスロット内線番号をダイヤルします。	基本通話パーク取得と同じです。

¹ 有効にする必要があります

² SCCP 電話機は、Park Retrieval に対して Pickup ソフトキーをサポートします。そうでない場合、[ピック (Pickup)]ソフトキーではローカルグループのピックアップが開始されます。

[通話パーク (Call Park)]機能を有効化するには、「[通話パークまたはダイレクトされた通話パークの有効化 \(10 ページ\)](#)」を参照してください。

基本通話パーク

通話パーク機能では、電話機のユーザが特別な内線番号で通話を保留にして、システム内の他の電話機から取得することができます。Park ソフトキーを押すと、**call-park** スロットと呼ばれる内線で通話をパークできます。Cisco Unified CME は次に利用可能な通話パークスロットを選択し、電話機にその番号を表示します。その後、別の電話機のユーザが通話パークスロットの内線番号をダイヤルするとコールを取得できます。

通話パークスロットとして使用する単一の内線番号または内線番号の範囲を定義できます。各通話パークスロットには一度に1つのコールを保留にすることができるため、ユーザがパークできるコール数は作成できるスロット数と同じです。セカンダリ番号を使用してコールをグループ化する場合、パークされた順序でコールが取得されます。最も長時間パークされていたコールが、最初に通話パークスロットから取得されます。

コールでG.711コーデックを使用している場合、またはコールでトランスコーディングされたG.729を使用している場合、パークスロットにパークされた発信者には、保留音（MOH）オーディオストリームが聞こえます。そうでない場合、発信者には保留トーンが聞こえます。ビジー状態のスロットでコールをパークしようとするユーザにはビジー音が聞こえます。

通話パークスロットは、**button m** コマンドを使用してモニタボタンに通話パークスロットを割り当てることでモニタされます。モニタされているスロットに通話のパークされると、回線状態は、[使用中 (in use)] になります。モニタされている通話パークスロットにパークされたコールは、割り当てられたモニタ ボタンでピックアップできます。

1つの内線での使用を予約された通話パークスロットを作成するには、最後の2桁が内線番号の最後の2桁と同じになる番号を、そのスロットに割り当てます。内線がコールのパークを開始すると、システムは最初に、最後の2桁が内線番号と同じ通話パークスロットを検索します。このような通話パークスロットが存在しない場合、システムは使用可能な通話パークスロットを選択します。

同じ内線番号を持つ複数の通話パークスロットを作成すると、特定の部門またはユーザのグループの複数のコールを基地の内線番号でパークできるようになります。たとえば、金属製品販売店で配管部門へのコールを内線番号 101 でパークし、照明部門へのコールを内線番号 102 でパークする、といったことができます。配管部門の全員が、101 にパークされたコールが自部門へのコールだということを認識し、内線番号 101 からコールをピックアップできます。複数のコールが同じ通話パークスロット番号でパークされる場合、パークされた順序でピックアップされます。つまり、最も長くパークされていたコールがその通話パークスロット番号から最初にピックアップされます。

複数の通話パークスロットが同じ内線番号を使用する場合、**no huntstop** コマンドを使用してその内線番号を使用する各 **ephone-dn** を構成する必要があります。これは、通話が送信される最後の **ephone-dn** は除外されます。さらに、**preference** コマンドを使用して、各 **ephone-dn** を構成する必要があります。**ephone-dn** の順序に合わせてプリファレンスの数値を大きくする必要があります。つまり、**ephone-dn** タグが最も小さいパークスロットは、プリファレンス番号を最も小さい数値にする必要があります。**preference** および **huntstop** コマンドを構成しなかった場合、2番目の通話がパークされた後で、パークされたすべての通話で、ビジーシグナルが生成されます。パークに転送された発信者にはビジー信号が聞こえますが、コールをパークした電話機ユーザには、コールが失われたことが通知されません。

park-slot コマンドの **timeout** キーワードを使用すると、通話をパークした内線でリマインダの呼び出しができます。**timeout** キーワードと引数は、通話パークリマインダリングがタイムアウトあうるか非アクティブになる間隔長を設定します。**timeout** キーワードが使用されていない場合、リマインダリングは、通話がパークされている内線に送信されません。タイムアウトの間隔とリマインダリングの回数は、**limit** キーワードと引数で構成します。たとえば、最大3回のタイムアウト間隔で2回のリマインダリングを送信します（間隔1、リング1、間隔2、リング2、間隔3）。**timeout** および **limit** キーワードおよび引数は、パークされたままとなる通話の最大時間をセットします。たとえば、10秒のタイムアウト間隔と最大5回のタイムアウト間隔 (**park-slot timeout 10 limit 5**) は、約50秒、通話をパークします。

notify キーワードを使用して、リマインダリングを受信する追加の内線番号を指定する場合を除いて、通話がパークされた内線番号だけにリマインダリングが送信されます。**notify** キーワ

ドを使用して追加の内線番号を指定した場合、その内線の電話機ユーザーが Pickup ソフトキーとアスタリスク (*) キーを押すと、そのスロットから通話を取得できます。

通話パークスロットでパークされるコールのタイムアウト間隔の長さと、コールが再呼出されるか転送される前に発生するはずのタイムアウト間隔の回数の両方を定義できます。 **park-slot** コマンドで転送先を指定する場合、タイムアウト間隔が過ぎた後に、パーク中の電話機のプライマリ番号ではなく、指定された転送先に通話が転送されます。

name コマンドを使用して通話パークスロットに名前が指定されている場合、再呼び出し時または転送時に内線番号ではなく、その名前が表示されます。

また、再呼び出し先または転送先が使用中（呼び出し中または接続済み）の場合、パークされたコールの転送先の代替内線番号も指定できます。たとえば、[図 1: 専用通話パークの例 \(8 ページ\)](#) に示すように、プライマリ内線が 2001 の電話機に対してプライベートパークスロットで通話がパークされます。タイムアウトを過ぎると、内線番号 2001 への再呼び出しを試行しますが、その回線は別のコールに接続されます。システムはその後、コールを代替内線番号 3784 に転送します。

パークされた進行中の通話の表示

電話機メニューの電話機の [サービス (Service)] ボタンを押して、[電話アプリ (My Phone Apps)] > [パークリスト (Park List)] の順に選択すると、SIP および SCCP 電話機でパークされた進行中の通話のリストを表示することができます。

パークされた通話のリストから通話を再呼び出しするには、目的の通話を選択して、Pickup ソフトキーを押します。

パークされた通話のリストを更新するには、メニューの [更新 (Update)] ソフトキーを押します。

最新のパークされた通話は、リストの一番上に表示されます。



(注) この機能は、SCCP および SIP 電話機の PLK ボタンとして構成できます。詳細については、[Cisco Unified SCCP 回線キーの機能ボタンの構成](#) および [Cisco Unified SIP 電話回線キーの機能ボタンの構成](#) を参照してください。

パークされた通話のアクティブリストを表示するようにユーザーインターフェイスを構成

この機能により、ユーザーはパークされた進行中の通話のリストを表示できます。これは、デフォルトで有効になっています。



- (注) この作業を実行する必要があるのは、この機能が電話機で無効になっている場合のみです。
- この機能は、SCCP および SIP 電話機ではデフォルトで有効になっています。SCCP 電話機の場合、この機能を有効または無効にすることができます。ただし、SIP 電話には有効化または無効化オプションがありません。



- 制約事項**
- パークされた進行中の通話が20を超える場合、パークされた最初の20の進行中の通話だけが表示されます。
 - reserved-for コマンドを使用して構成された専用のプライベート 通話パークスロットは、電話機のディスプレイではサポートされていません。

始める前に

- Cisco Unified CME 10.5 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone phone-tag**
4. **phone-ui park-list**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone phone-tag 例： Router(config)# ephone 12	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>phone-tag</i> — 構成タスク中にこの ephone を識別する一意の番号。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	phone-ui park-list 例： <pre>Router(config-ephone)# phone-ui park-list</pre>	電話ユーザーがパークされた進行中の通話のリストを表示できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> このコマンドは、デフォルトで有効になっています。
ステップ 5	end 例： <pre>Router(config-ephone)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

ダイレクト通話パーク

ダイレクト通話パーク機能では、電話機のユーザが[転送 (Transfer)]ソフトキーを使用して、コールを特定の通話パークスロットに転送できます。たとえば、顧客が小売店にコールし、スポーツ用品部門に問い合わせを行うとします。コールに応答したオペレータは、コールをスポーツ用品部門に関連付けられたパークスロットの1つに転送し、コールを取得するようにスポーツ用品部門を呼び出します。ダイレクト通話パークの話中ランプフィールド (BLF) をサポートする電話機を設定すると、特定のダイレクト通話パークスロットのビジーステータスおよびアイドルステータスをモニタできます。

Cisco Unified CME 4.0 よりも前のバージョンでは、発信者がパーク状態にする通話パークスロット番号を直接ダイヤルできました。別のコールがすでにスロットにパークされている場合、発信者にはビジー音が聞こえます。

Cisco Unified CME 4.0 から Cisco Unified CME 7.0 では、ユーザがパークスロット内線番号をダイヤルするか、または[ピック (Pickup)]ソフトキーを使用してパークスロット内線番号をダイヤルすることによって、ダイレクト通話パークスロットからコールを取得します。スロットにパークされているコールがない場合、発信者にはビジー音が聞こえます。

Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョンでは、ユーザは機能アクセスコード (FAC) と通話パークスロットの番号をダイヤルして、ダイレクトスロットからコールを取得します。

Cisco Unified CME はリモート電話機からのダイレクト通話パークをサポートしますが、ダイレクト通話パークスロットに対してローカルな電話機だけがコールを取得できます。

パーク予約グループ

Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョンでは、パーク予約グループを使用して通話パークスロットにオーナーシップを割り当てることができます。パーク予約グループが設定されたパークスロットは、同じパーク予約グループが設定された電話機だけで使用できます。パーク予約グループがないパークスロットは、パーク予約グループに割り当てられていない電話機で使用できます。

Cisco Unified CME 7.1 よりも前のバージョンでは、プライマリ回線に基づいて特定の電話機用の専用通話パークスロットを予約できました。その電話機のすべての回線で専用パークスロット

トを使用できました。Cisco Unified CME 7.1 の新しいパーク予約グループ機能では、専用パークスロットの使用に代わり、拡張されたパークスロット予約方法が提供されます。

パーク予約グループは、ダイレクト通話パークスロットに対してはサポートされません。



(注) 予約グループは、予約グループを持つ電話機で同じ予約グループ内のパークスロットにパークできるようにするために使用されます。

同じCME内のどの電話機でも、パークされたコールを取得できます。したがって、コールを取得するときではなく、コールパークするときにルールが適用されます。

専用通話パークスロット

park-slot コマンドの **reserved-for** キーワードを使用して、**ephone** 専用のプライベート通話パークスロットを構成します。専用通話パークスロットは電話機のプライマリ内線番号に関連付けられます。この電話機のすべての内線番号で、専用パークスロットにコールをパークできます。この電話機の内線番号は、専用パークスロット内のコールをパークできる内線番号だけになります。パークスロットに一度にパークできるコールは1つだけです。すでに使用中のスロット内にコールをパークしようとする、ビジー音が返されます。

次のいずれかの方法を使用して、専用通話パークスロットにコールをパークできます（パークを行う内線番号は、プライマリ内線番号が専用パークスロットに関連付けられた電話機の内線番号にする必要があります）。

- アクティブコールで、IP Phone のユーザは [パーク (Park)] ソフトキーを押します。
- アクティブコールで、IP Phone のユーザは [転送 (Transfer)] ソフトキーおよび通話パーク機能の標準またはカスタム FAC (機能アクセスコード) を押します。通話パークの標準 FAC は **6 です。
- アクティブコールで、アナログ電話機のユーザはフラッシュフックおよび通話パーク機能の標準またはカスタム FAC (機能アクセスコード) を押します。

次のいずれかの方法を使用して、専用通話パークスロットからコールを取得できます。

- IP Phone のユーザは [ピック (Pickup)] ソフトキーを押し、パークスロット番号をダイヤルします。
- IP Phone のユーザは [発信 (New Call)] ソフトキーを押し、パークスロット番号をダイヤルします。
- アナログ電話機のユーザはハンドセットを持ち上げ、ダイレクトコールピックアップの標準またはカスタム FAC を押し、パークスロット番号をダイヤルします。ダイレクトピックアップの標準 FAC は **5 です。

コールをパークしようとしている **ephone-dn** の専用パークスロットが Cisco Unified CME システム内のどこにも見つからない場合、システムは標準通話パーク手順を使用します。つまり、システムは（コールをパーク使用としている **ephone-dn** の最後の 2 桁と一致する **ephone-dn** 番号

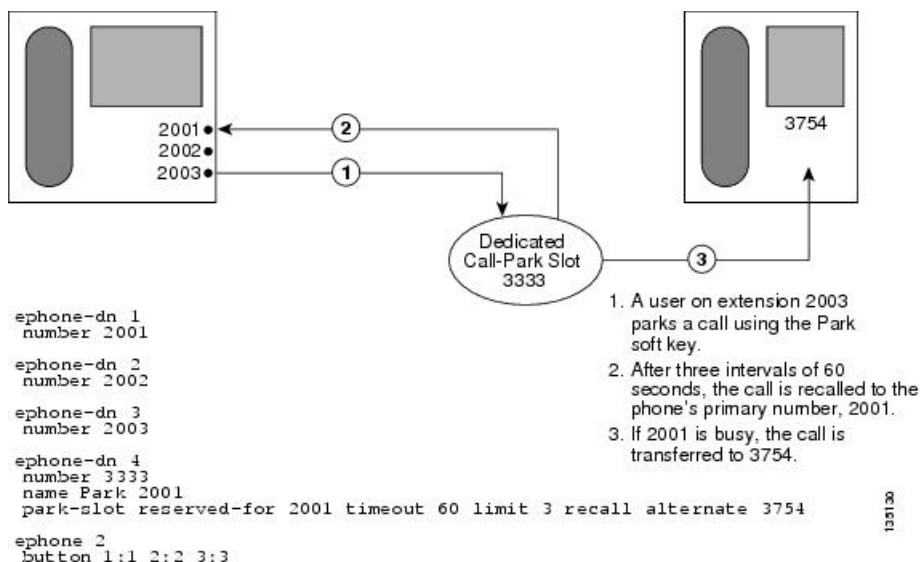
の) 優先されるパークスロットを検索し、見つからない場合は、使用可能な通話パークスロットを使用します。

図 1: 専用通話パークの例 (8 ページ) では、専用通話パークスロットの例を示しています。

タイムアウト間隔が過ぎた後に通話を再呼び出しする必要があることが構成で指定されている場合、電話機の内線番号がパークを行うかどうかに関係なく、通話は常に電話機のプライマリ内線番号に戻されます。図 1: 専用通話パークの例 (8 ページ) には、内線番号 2001、2002、および 2003 で構成される ephone、および内線番号 3333 のプライベート通話パークスロットが示されています。パークされた通話のタイムアウトが過ぎると、プライベート通話パークスロットが通話を再呼び出しするように設定されています。この例では、[パーク (Park)] ソフトキーを使用して、内線番号 2003 でコールをパークします。タイムアウト間隔が過ぎると、内線番号 2001 で呼び出し音が鳴ります。

図 1: 専用通話パークの例 (8 ページ) の設定では、60 秒のタイムアウトが 3 回過ぎたら (180 秒後に)、コールを再コールするか、パークスロットから転送することが指定されています。また、3 回のタイムアウトが過ぎる前に、電話機はパークされたコールがあることを示すアラーム通知を受信します。アラームは、60 秒のタイムアウト間隔が過ぎるたびに (60 秒後と 120 秒後) 送信されます。通話をシンプルにパークし、リマインダリングを送信せずに、再呼び出しまたは転送するように、上限が 1 になるよう **timeout** コマンドを設定することができます。

図 1: 専用通話パークの例



通話パークロッキング

Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.0 以降では、各 **transfer-park blocked** コマンドを使用すると、個々の Ephone が通話パークスロットに転送されるのを防ぐことができます。このコマンドは、[パーク (Park)] ソフトキーだけを使用する通話パークを許可しながら、[転送 (Transfer)] ソフトキーおよび通話パークスロット番号を使用するパークへの転送を防止します。 ([パー

ク (Park)] ソフトキーの使用を防止するには、**ephone** テンプレートを使用して電話機から削除します。[ソフトキーのカスタマイズ](#)を参照してください)。

例外は、予約された、または専用のパークスロットがある電話機の場合です。専用パークスロットがある **ephone** で **transfer-park blocked** コマンドを使用する場合、電話機が電話機の専用パークスロット以外のパークスロットでの通話のパークからブロックされますが、専用パークスロットでの通話のパークは可能です。

通話パークリダイレクト

デフォルトでは、通話パーク機能を使用する H.323 コールおよび SIP コールがヘアピンコール自動転送またはヘアピン転送を使用して、コールをパークするか、またはパークからのコールをピックアップします。**call-park system redirect** コマンドを使用すると、Call Forward または Call Transfer 向け H.450 または the SIP Refer メソッドを通話で使用するように指定できます。コマンドの **no** 形式は、システムをデフォルト動作に戻します。

通話パーク再呼び出しの機能拡張

Cisco Unified Cisco Mobility Express 9.5 以前のバージョンでは、宛先の電話機がオフフックまたは呼び出し中の場合、パークされた通話は、通話のパークした電話機または通話を転送した元の電話機で取り消すことも、転送することもできませんでした。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 9.5 では、telephony-service 構成モードの **call-park system** コマンドに **recall force** キーワードが追加されたので、ユーザーは、パークされた通話をパーク状態にした電話機、または予約済みの電話機に強制的に再呼び出しまたは転送できます。宛先の電話が通話に回答できる場合は、その番号をプライマリ DN として使用します。その他の構成例については、「[通話パーク再呼び出しの構成例 \(20 ページ\)](#)」を参照してください。

Unified Cisco Mobility Express 10.5 より前は、通話パークの再呼び出しと着信コールの着信音は同じでした。Unified Cisco Mobility Express 10.5 では、パーク再呼び出しに新しい着信音が導入され、ユーザーが通話タイプを明確に識別できるようになりました。この機能をアクティブにするための構成は必要ありません。SCCP エンドポイントの着信音は機能リングであり、SIP エンドポイントの着信音は Bellcore-dr2 です。

[典型的な通話パーク呼び出し (Distinctive Call Park Recall)] 機能は、SCCP エンドポイントのすべての電話機ファミリーでサポートされています。SIP 電話機の場合、この機能は Cisco IP Phone 7800 Series、8900 Series および 9900 Series Phone でサポートされています。



(注) Cisco IP Phone 8800 Series 電話機では、[典型的な通話パーク呼び出し (Distinctive Call Park Recall)] 機能はサポートされていません。

パーク モニタリング

In Cisco Unified CME 8.5 以降のバージョンでは、パーク モニタリング機能で、パーク中のコールが取得または破棄されるまでコールをパークし、パーク中のコールのステータスをモニタリングすることができます。Cisco Unified SIP IP Phone 8961、9951、または 9971 は [パーク (Park)] ソフトキーを使用してコールをパークし、パーク モニタリング機能はパーク中のコールのステータスをモニタリングします。パーク中のコールが取得されるか、またはパーク取得者によって破棄されるまで、パーク モニタリング コール バブルはクリアされません。このパーク中の通話は、パーク元の電話機で同じ通話バブルを使用して取得でき、パーク中の通話状態を監視できます。

通話がパークされると、Cisco Unified Cisco Mobility Express は SIP NOTIFY メッセージをパーク元の電話機に送信します。このメッセージは、通話がパークされている間にパーク元の電話機でパークスロット番号を表示できるように、「パークされた」イベントとパークスロット番号を示します。

パーク中の通話が取得されると、Cisco Unified Cisco Mobility Express は別の SIP NOTIFY メッセージをパーク元の電話機に送信します。このメッセージは、この電話機で通話バブルをクリアできるように、「取得された」イベントを示します。パーク中の通話が取得者によって接続解除されると、Cisco Unified Cisco Mobility Express は SIP NOTIFY メッセージをパーク元の電話機に送信します。このメッセージは、「破棄された」イベントを示し、パーク元の電話機はパーク中の通話のキャンセル時に通話バブルをクリアします。

パーク中の通話が再呼出または転送されると、Cisco Unified Cisco Mobility Express は SIP NOTIFY メッセージをパーク元の電話機に送信します。このメッセージは、パーク元の電話機でパーク、再呼出、および転送の実行時に通話バブルをクリアできるように、「転送された」イベントを示します。また、パーク元の電話機から直接コールバブルを選択するか、または電話機で [復帰 (Resume)] ソフトキーを押して、パーク中のコールを取得できます。



(注) [パーク監視 (Park Monitor)] 機能は、Cisco IP Phone 7800 Series および Cisco Unified IP Phone 9900 Series でサポートされています。ただし、Cisco IP Phone 8800 Series は [パーク監視 (Park Monitor)] 機能をサポートしていません。

通話パークの構成

通話パークまたはダイレクトされた通話パークの有効化

SCCP 電話機または SIP 電話機で通話パークを有効にするには、次の手順を実行します。



制約事項

- SIP 電話機の場合、Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7921、7940、または 7960 には [パーク (Park)] ソフトキーがサポートされていません。
- パーク取得はローカル電話だけでサポートされます。電話機で別の Cisco Unified CME ルータへリモートにコールをパークできますが、通話パークスロットをホストしているローカルルータに登録された電話機だけがコールを取得できます。
- Cisco Unified CME 7.1 よりも前のバージョンでは、通話パークとダイレクト通話パークで同じ通話パークスロットを共有していました。Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョンでは、ダイレクト通話パークを使用している場合、ユーザがコールを基本パークスロットに転送しようとする、Cisco Unified CME はパーク取得であると見なします。
- ユーザーが、PickUp ソフトキーを押して、通話パークスロットまたはアスタリスク (*) の内線番号にダイヤルすると、SCCP 電話機でパークされた通話を取得することができます (**service directed-pickup** コマンドが有効な場合のみ (デフォルト))。そうでない場合、これによってローカルグループピックアップが開始されます。
- ダイレクト通話パークでは、パーク予約グループがサポートされません。
- 同じ内線番号の異なるディレクトリ電話番号で、通話パーク設定が同じになっている必要があります。
- H.323 トランクからのコールは、SIP 電話機ではサポートされません。
- **call-park system application** コマンドでは、Hold Pickup はサポートされていません。

始める前に

- SIP 電話機では、Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョンが必要。
- IP Phone が [パーク (Park)] ソフトキーをサポートしていること。デフォルトでは、サポートされる SCCP 電話機および SIP 電話機に [パーク (Park)] ソフトキーが表示されません。以前に無効にした場合、**softkeys connected** コマンドを使用して、Park ソフトキーを有効化する必要があります。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **call-park system { application | redirect }**
5. **fac { standard | custom dpark-retrieval custom-fac }**
6. **exit**
7. **ephone-dn dn-tag [dual-line]**
8. **number number [secondary number] [no-reg [both | primary]]**

9. **park-slot** [**directed**] [**reservation-group** *group-number*] [**reserved-for** *extension-number*] [[**timeout** *secondslimit* *count*] [**notify** *extension-number* [**only**]] [**recall**] [**transfer** *extension-number*] [**alternate** *extension-number*] [**retry** *secondslimit* *count*]]
10. **exit**
11. **ephone** *phone-tag* または **voice register pool** *phone-tag*
12. **park reservation-group** *group-number*
13. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	call-park system { application redirect } 例： Router(config-telephony)# call-park system application	通話パーク機能のシステム パラメータを定義します。 • application — Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1以降のバージョンでサポートされている [通話パーク (Call Park)] 機能と [ダイレクトされた通話パーク (Directed Call Park)] 機能を有効にします。 • redirect — H.323 および SIP 電話機が、Call Forwarding または Call Transfer の H.450 または SIP Refer 方式を使用して、通話をパークし、パークから通話に応答するよう指定します。
ステップ 5	fac { standard custom dpark-retrieval <i>custom-fac</i> } 例： Router(config-telephony)# fac custom dpark-retrieval #25	SCCP 電話機と SIP 電話機で、標準 FAC を有効にするか、あるいはダイレクトパーク取得機能のカスタム FAC エイリアスを作成します。 • Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョンでは、このコマンドを有効にして、ダイレクトパーク取得機能を使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • standard— すべての電話機に対して標準 FAC を有効化します。パーク取得の標準 FAC は **10 です。 • custom— 機能のカスタム FAC を作成します。 • custom-fac— IP Phone またはアナログ電話でキーパッドを使用してダイヤルするユーザー定義のコード。カスタム FAC には、0～9の数字と*および#を含めて、最大256文字を指定できます。
<p>ステップ 6</p>	<p>exit</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-telephony)# exit</pre>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>
<p>ステップ 7</p>	<p>ephone-dn dn-tag [dual-line]</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config)# ephone-dn 1</pre>	<p>ephone dn コンフィギュレーションモードを開始して、IP フォンのディレクトリ番号、インターコム回線、音声ポート、またはメッセージ待機インジケータ (MWI) を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • dn-tag — 構成タスク中に特定のディレクトリ番号を指定します。範囲は1からルータのプラットフォームで許可されるディレクトリ番号の最大数までです。範囲を表示するには、?と入力します。
<p>ステップ 8</p>	<p>number number [secondary number] [no-reg [both primary]]</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-ephone-dn)# number 3001</pre>	<p>内線番号をこのディレクトリ番号に関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • number — 内線または E.164 電話番号を示す最大 16 桁の文字列。 <p>(注) プライマリ番号は通話パークスロットで一意にする必要があります。</p>
<p>ステップ 9</p>	<p>park-slot [directed] [reservation-group group-number] [reserved-for extension-number] [[timeout secondslimit count] [notify extension-number [only]] [recall] [transfer extension-number] [alternate extension-number] [retry secondslimit count]]</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-ephone-dn)# park-slot directed</pre>	<p>コールを一時的に保留にする (パークする) 内線番号 (通話パークスロット) を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • directed — (オプション) この内線番号を使用してダイレクトされた通話パークを有効にします。このキーワードは Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョンでサポートされています。 • reservation-groupgroup-number — (オプション) このスロットを、指定された予約グループ付きで設定された電話機のために予約します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>これは、ステップ 12 で電話機に割り当てたグループです。このキーワードは Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョンでサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • reserved-for<i>extension-number</i> — (オプション) このスロットをプライマリ回線の内線番号付き電話機用にプライベートのパークスロットとして予約します。 <p>(注) reservation-group および reserved-for キーワードは、相互に排他的です。 reservation-group キーワードを使用すると、reserved-for キーワードは無視されます。予約グループは、予約グループを持つ電話機で同じ予約グループ内のパークスロットにパークできるようにするために使用されます。同じ CME 内のどの電話機でも、パークされたコールを取得できます。したがって、コールを取得するときではなく、コールパークするときにルールが適用されます。</p>
<p>ステップ 10</p>	<p>exit</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-ephone-dn)# exit</pre>	<p>設定モードを終了します。</p>
<p>ステップ 11</p>	<p>ephone <i>phone-tag</i> または voice register pool <i>phone-tag</i></p> <p>例 :</p> <pre>Router(config)# ephone 1</pre> <p>または</p> <pre>Router(config)# voice register pool 1</pre>	<p>ephone コンフィギュレーションモードを開始して、SCCP 電話機の電話機固有のパラメータを設定します。</p> <p>または</p> <p>音声レジスタ プール コンフィギュレーションモードを開始して、SIP 電話機の電話機固有パラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>phone-tag</i> — 電話機を識別する一意のシーケンス番号。範囲は、バージョンとプラットフォームに依存します。範囲を表示するには、? と入力します。
<p>ステップ 12</p>	<p>park reservation-group <i>group-number</i></p> <p>例 :</p>	<p>(任意) 通話パーク予約グループを電話機に割り当てます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config-ephone)# park reservation-group 1 または Router(config-register-pool)# park reservation-group 1	<ul style="list-style-type: none"> • <i>group-number</i>— 予約グループを識別する一意の番号。文字列には最大32桁を指定できます。 • このコマンドは ephone テンプレート コンフィギュレーション モードまたは音声レジスタ テンプレート コンフィギュレーション モードで設定し、1台または複数の電話機に適用することができます。電話機の設定はテンプレートの設定よりも優先されます。 • このコマンドは、Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1バージョン以降でサポートされています。
ステップ 13	end 例： Router(config-ephone)# end または Router(config-register-pool)# end	設定モードを終了します。

基本通話パーク、ダイレクトされた通話パーク、およびパーク予約グループの例

基本通話パーク

次に、SCCP 電話機または SIP 電話機で使用できる3つの基本通話パークスロットの例を示します。任意の電話機で、これらの内線番号でパークされたコールを取得できません。

```

ephone-dn 23
 number 8123
 park-slot timeout 10 limit 2 recall
 description park slot for Sales
!
ephone-dn 24
 number 8124
 park-slot timeout 10 limit 2 recall
 description park slot for Sales
!
ephone-dn 25
 number 8125
 park-slot timeout 15 limit 3 recall retry 10 limit 2
 description park slot for Service
    
```

ダイレクト通話パーク

次は、Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1以降で拡張された[通話パーク (Call Park)]機能と [ダイレクトされた通話パーク (Directed Call Park)]機能を、**call-park system application** コマンドを使用して、telephony-service 構成モードで、有効化する例です。

内線番号が 3110 と 3111 の 2 つの通話パークスロットは、ダイレクト通話パークを使用する薬局へのコールをパークするために使用できます。

```
telephony-service
load 7960-7940 P00308000500
max-ephones 100
max-dn 240
ip source-address 10.7.0.1 port 2000
cnf-file location flash:
cnf-file perphone
voicemail 8900
max-conferences 8 gain -6
call-park system application
transfer-system full-consult
fac standard
create cnf-files version-stamp 7960 Sep 25 2007 21:25:47
!
!
ephone-dn 10
number 3110
park-slot directed
description park-slot for Pharmacy
!
ephone-dn 11
number 3111
park-slot directed
description park-slot for Pharmacy
```

パーク予約グループ

次に、2 つの通話パークスロットに設定されるパーク予約グループの例を示します。内線番号 8126 は、グループ 1 のために設定され、電話機 3 および 4 に割り当てられます。内線番号 8127 は、グループ 2 のために設定され、電話機 10 および 11 に割り当てられます。薬局へのコールが内線 8126 でパークされ、電話機 3 と 4 で取得できます。

```
ephone-dn 26
number 8126
park-slot reservation-group 1 timeout 15 limit 2 transfer 8100
description park slot for Pharmacy
!
ephone-dn 27
number 8127
park-slot reservation-group 2 timeout 15 limit 2 transfer 8100
description park slot for Auto
!
!
ephone 3
park reservation-group 1
mac-address 002D.264E.54FA
type 7962
button 1:3
!
!
ephone 4
park reservation-group 1
mac-address 0030.94C3.053E
type 7962
button 1:4
!
!
```



```
ephone 10
  park reservation-group 2
  mac-address 00E1.CB13.0395
  type 7960
  button 1:10
!
!
ephone 11
  park reservation-group 2
  mac-address 0016.9DEF.1A70
  type 7960
  button 1:11
```

通話パークの確認

ステップ1 `show running-config` コマンドを使用して構成を確認します。出力の `ephone-dn` の部分に通話パークスロットが一覧表示されます。

例：

```
Router# show running-config

!
ephone-dn 23
  number 853
  park-slot timeout 10 limit 1 recall
  description park slot for Sales
!
!
ephone-dn 24
  number 8126
  park-slot reserved-for 126 timeout 10 limit 1 transfer 8145
!
!
ephone-dn 25
  number 8121 secondary 121
  park-slot reserved-for 121 timeout 30 limit 1 transfer 8145
!
!
ephone-dn 26
  number 8136 secondary 136
  park-slot reserved-for 136 timeout 10 limit 1 recall
!
!
ephone-dn 30 dual-line
  number 451 secondary 501
  preference 10
  huntstop channel
!
!
ephone-dn 31 dual-line
  number 452 secondary 502
  preference 10
  huntstop channel
!
```

ステップ2 `show telephony-service ephone-dn` コマンドを使用すると通話パーク構成情報を表示できます。

例：

```
Router# show telephony-service ephone-dn

ephone-dn 26
  number 8136 secondary 136
  park-slot reserved-for 136 timeout 10 limit 1 recall
```

再呼び出しされたコールのタイムアウト時間の構成

再呼び出しされた通話に対して応答がない場合のタイムアウト時間を構成するには、次の手順を実行します。このコマンドは、応答がない場合に呼び出し状態の通話がタイムアウト期間後に自動的に切断されるすべての IP Phone にも適用できます。

この機能は、デフォルトで有効にされています。この作業を実行する必要があるのは、この機能が電話機で無効になっている場合のみです。

始める前に

Cisco Unified CME 10.5 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone ring timeouts seconds**
4. **exit**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone ring timeouts seconds 例： Router(config)# ring timeout 25	通話を切断する前のタイムアウト期間を入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	exit 例 : Router(config-ephone)# exit	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次は、ring timeouts コマンドが電話機で有効になっている例を示しています。

```
ephone-dn 10 dual-line
number 1001
no huntstop
huntstop channel
ephone-dn 11 dual-line
```

通話パークのトラブルシューティング

ステップ 1 show ephone-dn park

このコマンドを使用して、設定された通話パークスロットとそのステータスを表示します。

```
Router# show ephone-dn park

DN 50 (1560) park-slot state IDLE
Notify to () timeout 30 limit 10
```

ステップ 2 **debug ephone** コマンドを使用すると、ephone 関連のメッセージや状態を監視できます。詳細については、「[Cisco Unified Cisco Mobility Express コマンド参照](#)」を参照してください。

通話パークの設定例

基本的な通話パークの構成例

次に、番号が 1560 の通話パークスロットを作成する例を示します。コールがこの番号でパークされた後、システムはコールがパークされた内線番号に対して 30 秒の間隔で 10 回のリマインダリングを送信します。

```
ephone-dn 50
number 1560
park-slot timeout 30 limit 10
```

通話パークを使用しない電話機のブロッキング例

次に、ephone 25 および内線番号 234、235、および 236 に対して通話パークスロットでコールがパークされるのを防ぐ例を示します。

```
ephone-dn 11
  number 234

ephone-dn 12
  number 235

ephone-dn 13
  number 236

ephone 25
  button 1:11 2:12 3:13
  transfer-park blocked
```

次に、ephone 6 で内線番号に専用パークスロットを設定し、その電話機の内線番号 2977、2978、および 2979 からの通話パークへの転送をブロックする例を示します。これらの内線番号では、Park ソフトキーまたは Transfer ソフトキーおよび通話パークの FAC を使用して、電話機の専用パークスロットで通話をパークすることはできません。

```
ephone-dn 3
  number 2558
  name Park 2977
  park-slot reserved-for 2977 timeout 60 limit 3 recall alternate 3754

ephone-dn 4
  number 2977

ephone-dn 5
  number 2978

ephone-dn 6
  number 2979

ephone 6
  button 1:4 2:5 3:6
  transfer-park blocked
```

通話パークリダイレクトの構成例

次に、パークされる H.323 コールおよび SIP コールが、パークされるかピックアップされるときに H.450 または SIP Refer 方式を使用するように指定する例を示します。

```
telephony-service
call-park system redirect
```

通話パーク再呼び出しの構成例

次の例は、電話機がビジーのときに、以前にパークされた通話を強制的に再呼び出しする方法を示しています。

```
Router# configure terminal
Router(config)# telephony-service
Router(config-telephony)# call-park system ?
recall          Configure parameters for recall
Router(config-telephony)# call-park system recall ?
force          Force recall for busy call park initiator
Router(config-telephony)# call-park system recall force
```

次の作業

[パーク (Park)]ソフトキー使用の制御

キーディスプレイを削除せずに、call park (Park) ソフトキーの機能をブロックするには、**features blocked** コマンドを含む ephone テンプレートを作成し適用します。詳細については、[ソフトキーのカスタマイズ](#)を参照してください。

1台以上の電話機から call park (Park) ソフトキーを削除するには、適切な **softkeys** コマンドを含む ephone テンプレートを作成し、適用します。詳細は[ソフトキーのカスタマイズ](#)を参照してください。

ephone テンプレート

通話パークスロットへの転送をブロックする **transfer-park blocked** コマンドには、各 ephone に適用されている ephone テンプレートを含めることができます。

Park ソフトキーは、ephone テンプレートに適切な **softkeys** コマンドを含め、そのテンプレートを各 ephone に適用することによって、1台以上の電話機のディスプレイから削除できます。

詳細については、[テンプレート](#)を参照してください。

機能アクセスコード

システムに対して標準またはカスタム FAC が有効になっている場合、電話機のソフトキーの代わりに機能アクセスコード (FAC) を使用してコールをパークできます。通話パーク FAC は通話パークスロットへの転送であると見なされるため、[転送 (Trnsfer)]ソフトキー (IP Phone の場合) またはフックフラッシュ (アナログ電話機の場合) を使用して転送を開始した後だけ有効になります。次に、通話パークの標準 FAC を示します。

- 専用パークスロット：標準 FAC は **6 です。
- 使用可能な任意のパークスロット：標準 FAC **6 とオプションのパークスロット番号です。

FAC の詳細については、[機能アクセスコード](#)を参照してください。

通話パークの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: 通話パークの機能情報

機能名	Cisco Unified Cisco Mobility Express のバージョン	機能情報
通話パーク再呼び出しの機能拡張	9.5	call-park system コマンドに再呼び出し強制キーワードを追加しました。
通話パーク	8.5	パーク モニタのサポートが導入されました。
	7.1	SIP 電話機の通話パークのサポートが追加され、パーク予約グループが導入され、ダイレクト通話パークが強化されました。
	4.0	専用通話パークスロット、代替再コール場所、通話パークのブロックが導入されました。スロットへのパークを試行するのではなく、パークされたコールのピックアップを試行しようとする、パークスロットへのダイレクトコールが中断されるようになりました。
	3.2.1	通話パークスロットのモニタリングが導入されました。
	3.1	通話パークが導入されました。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。